

2024年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）A日程 入学試験問題

「 憲 法 」

〈45分〉

（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

次の仮想事例を読み、下記の設問に答えなさい。

【仮想事例】

A市は、市民の文化の向上及び福祉の増進を図るため、A市立文化会館（以下、「本件会館」とする）を設置している。本件会館は、有名建築家が手がけた建築物であることから、これまでに多くの写真家の写真撮影に使用され、テレビ局のドラマ撮影に使用されるなどしてきた。

コスプレ撮影会を主催するXは、本件会館においてコスプレ撮影会を開催するため（以下、「本件撮影会」とする）、A市長に本件会館の利用許可を申請した。これに対し、A市長は、過激なコスチュームやポーズでの撮影を行わないことを条件として、Xに本件会館の利用を許可した。

ところが、一部市民から「Xの過去の撮影会では、目のやり場に困るコスチュームやポーズが見受けられたので、本件撮影会を中止すべきである」とのメールがA市に届いた。A市は、SNSを確認したところ、メールの内容が事実であり、本件会館の利用条件に違反すると判断した。

そこで、A市は、A市立文化会館条例4条1号に基づき、Xに対して本件会館の利用許可を取消した（以下、「本件不許可処分」とする）。

Xは、本件撮影会では、アニメの人気キャラクターに扮した者を撮影し、その人気キャラクターが登場するアニメの名シーンを再現して撮影するだけであると考え、本件不許可処分に納得がいかないことから訴訟を提起しようとしている。

【設問】本件不許可処分には、どのような憲法上の論点があるか。Xの立場から、A市の反論を踏まえて論じなさい。

なお、法律と条例の関係、団体の人権、文言の明確性について触れる必要はない。

【参考法令】A市立文化会館条例（抄）

（設置）

第1条 市民の文化の向上及び福祉の増進を図るため、本市に文化会館を設置する。

（利用許可）

第3条 文化会館を利用しようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

2 市長は、前項の許可をする場合において、必要があると認めるときは、利用について条件を付することができる。

(利用の制限)

第4条 市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、文化会館の利用を許可しない。

- 一 公安、公益を害し、又は風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- 二 建物又はその附属設備品を損傷するおそれがあると認めるとき。
- 三 その他管理上市長において支障があると認めるとき。

以上

2024年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）A日程 入学試験問題

「 刑 法 」

〈45分〉

（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

以下の設例における甲及び乙の罪責を、判例及び学説の動向をも意識しながら論じなさい（特別法違反は除く）。

〔設例〕

甲（満30歳）は大学卒業後、A製薬会社に勤務していたが、このたび人員整理により突然解雇されてしまった。それを恨みに思った甲は、会社時代の上司であった乙課長（満59歳）が、A社の開発した新薬に関する機密情報が入ったUSBメモリ（以下、「本件USBメモリ」と称する）を社内の金庫に保管する任務を負っていたことを思い出し、その本件USBメモリを廃棄してA社を混乱させようと計画した。

そこで甲が乙のスマートフォンに電話を入れ、この件を提案したところ、乙は当然のことながら難色を示した。そこで甲は乙に対し、自分の提案通りにUSBメモリを渡してくれたなら、お礼に100万円を渡すと追加で提案した

（しかし、甲は実際に100万円を払うつもりはなく、とにかくこの件を実現させるためにとっさについた嘘であった）。それを聞いた乙は、自身も定年退職を間近に控え、長年A社の待遇に関して不満を抱いており、本件USBメモリの紛失により懲戒解雇になっても、妻とはすでに円満離婚して子供等の扶養家族もおらず、退職金も甲からの謝礼程度しかもらえない見込みだったことから、甲の申し出を了承することにした。

乙はその翌日の勤務時間終了後の深夜、A社では幹部社員と乙しか知らない暗証番号を入力してA社の本社ビル6階にある金庫を開け、中から機密情報入りの本件USBメモリを取り出して、自身のバッグに入れ、事前に呼び出しておいた甲が待機する居酒屋Bに向かい、同店内で甲に本件USBメモリを手渡した。甲は乙に対し、100万円を調達するのに時間がかかるので、しばらく待つて欲しいと要請し、乙もそれを了承し、この日は飲食代金だけ甲が全額負担して乙の労をねぎらった。

甲はB店前で乙と別れた後、直ちに一級河川のC川のたもとに向かい、そこから本件USBメモリを川に投げ捨てた。

以上

2024年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）A日程 入学試験問題

「 民 法 」

〈45分〉

（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

Aは事業に失敗し、取引先から仕入れた商品の代金3000万円を支払えなくなってしまった。そこで、Aは、妻Xが親から相続した土地甲を所有していることに目をつけ、Xの実印と甲の権利証を持ち出し、委任状を偽造して、勝手にXを代理して甲をYに売却し、代金の支払いと引き換えに甲を引き渡した。そして、AはYから受領した甲の売却代金を取引先に対する3000万円の代金債務の支払いに充ててしまった。なお、甲の登記の移転はまだ行われていない。

（設問1）その後、事態に気が付いたXは、Yに対して甲の返還請求をした。Xの請求は認められるか。

（設問2）Xが事態に気が付く前に、Aが死亡した。Aの相続人はXのみである。YはXに対してどのような請求ができるか。

2024年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）A日程 入学試験問題

「 商 法 」

〈45分〉

（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

次の設例を読み、後記〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。配点：〔設問1〕50点、〔設問2〕（1）25点、（2）25点

1. 甲株式会社（以下「甲社」という。）は、取締役会および監査役会設置会社であるが、取締役の任期に関する定款の別段の定めを有していない。また、公開会社ではあるが、その発行する株式は金融商品取引所に上場されていない。
2. 甲社の筆頭株主である乙合同会社（以下「乙社」という。）は、業績不振に陥りその保有する甲社株式を売却して投下資本を回収しようとしたが、甲社株式が非上場株式であることから、甲社に買い取ってもらうこととし、その旨を甲社の取締役会に申し入れた。
3. 甲社の取締役会は、乙社のみからその保有する甲社株式のすべてを買い取る旨を決定し、甲社の代表取締役Aは、当該決定に基づき甲社を代表して当該株式を取得した（以下「本件株式取得」という。）。
4. 本件株式取得に係る取得価額は1株あたり2万円であったが、第三者機関による甲社の株式の鑑定価値は1株あたり1万円であった。

〔設問1〕

本件株式取得には、会社法上どのような問題が認められるか。

〔設問2〕

- （1）乙社の取引銀行の担当者から本件株式取得の事実を聞かされた甲社の株主Xは、甲社の株式を2年前から保有している。Xは、〔設問1〕において指摘された会社法上の問題を根拠として、甲社に対し本件株式取得に係るAの任務懈怠責任を追及することができるか。
- （2）Aは、Xからの責任追及を回避するために、〔設問1〕において指摘された会社法上の問題を根拠として、甲社を代表して乙社に対し本件株式取得の無効を主張することができるか。

「 民事訴訟法 」

〈45分〉

（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

弁論主義と自由心証主義が適用される範囲について説明したうえで、①証拠制限契約（例えば証拠を書証に限定する旨の契約）及び②間接事実の自白契約がそれぞれ適法か否か論じなさい。